

北海道遺産
Hokkaido Heritage

北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第107号

ピアソン便り

2022.12.10

発行人：福井 洋之（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

第36回文化サロンdeピアソン

「われ弱ければ 矢嶋楯子伝」上映会、盛大に終了！

NPO 法人ピアソン会副理事長 中山 一夫

10月29日の土曜日、午前10時30分と午後2時からの二回にわたり上映会を実施しました。ピアソン会の今年度の最大の自主事業として、イオン北海道株式会社、「ほっかいどう遺産WAOON」助成の協力を得て開催することが出来ました。当日は、二回合わせて三三七人の観客の参加となりました。このことは、会員各位のご協力や当日のお手伝いの賜物であり、観客の皆様のご理解に支えられて、矢嶋楯子の生涯が描かれた約二時間での上映会でした。

鑑賞した人に聞くと、概ね好評で、特に女性の間では、顕著に感動したとの言が多かったです。うです。

上映前の山田火砂子監督による舞台挨拶の中で、何故この映画を製作したかを語っていました。矢嶋楯子のように中年に

なっから勉強し、九十二才で亡くなるまで、女性解放運動に捧げた生涯を考えると、女性が立ち上がれば、世の中が変わるということは今からでも遅くはないと、期待を込めて話されました。



写真／ピアソン記念館前の上映案内看板



写真／北海道新聞での監督挨拶記事

矢嶋楯子は、江戸時代の後期に熊本県に生まれ、上京し教員伝習所に通い、小学校の教員となり、さらに女学校の校長を務め、女子教育を進めた教育者でした。その後婦人矯風会組織を立ちあげ、女性解放運動を先導したことでいえば、女性解放運動の「ファーストペンギン」あるいは「先頭バツター」と言っても過言ではないと思います。

今から、百五年前の一九一七

(大正6)年、北見でピアソン夫妻が行なっていた遊郭設置反対運動を支援するために北見で三日間講演をしたことが、映画では描かれていないのですが、上映会の中でそのことが話される機会があれば、観客の方々に北見の歴史にとつて貴重な人だとアピール出来て、ピアソン会が上映活動をする意義は更に理解されたと思います。(了)



写真／ピアソン会スタッフにより、来場者受付、消毒液、検温体制も準備オーケー。

「ヴォーリス建築文化全国ネットワーク」
 会員仲間よりの
貴重な、矢嶋楯子関連情報提供！

2007（H19）年5月、軽井沢のユニオンチャーチを会場として、全国のヴォーリス建築に関わりのある団体あるいはヴォーリスファン等により「ヴォーリス建築文化全国ネットワーク」が創立されましたが、その創立時より献身的にこの組織の事務局を支えてくださっていた西宮市在住の山崎富美子・忠厚御夫妻より、貴重な情報がピアソン会へ提供されました。

山崎さんは、関西学院大学に勤務されていた頃に、大学の図書館資料より、ピアソン宣教師に関する論文・レポート等の情報を、ピアソン記念館へ自主的に提供して下さった方でもあります。そのような事から、私どもの会報「ピアソン便り」を定期的に発送させていただいていたのですが、その会報第105号に「われよ弱ければ矢嶋楯子」上映会予定記事を掲載したこともあり、別掲写真等と手紙が送られてきました。

手紙の要約から説明しますと、山崎家は呉の山手教会の会員だったとのこと。呉には海軍鎮守府が置かれていて、そのような土地柄か貸座敷業「朝日遊郭」があり、日本基督教婦人矯風会は、明治41



年に、矢嶋楯子の教え子である十時菊子が「呉ホーム」を設立したと書かれていました。

矢嶋楯子が、いつ呉に来たかは定かでないようですが、このような背景で、山崎家には矢嶋楯子の「お軸」が大事に保管されており、写真にあるように、新年のお茶会などの時には、女性たちの活動のシンボルのように床間に掛けられ、その写真が残っていました。呉は戦時中空襲にも見舞われ、山崎家は母屋・貸家とも消失してしまいました。が、楯子のお軸は疎開して難を逃れたとのこと。いかにこのお軸を大切にしていたか



がわかると思います。

山崎富美子さんの読み下しによると、『書は、「元始二 神天地を創造し給へ利 大正八末の秋 八十七沙門（？）波門（？）楯書」と書かれています。これによると、大正8年羊年の秋に、87歳楯書と記されています。八十七の次の字がよくわかりません。沙門と読み取れないこともありませんが、或いは波か。いずれにしても非常に意思の強い立派な書だと感心しております。』と書き添えられています。

ヴォーリス建築文化全国ネットワークの会員の中には、このように矢嶋楯子の事跡に大いに関係ある人々がいると感じました。今後も貴重な情報は、このように報告させていただきます。（伊）

第37回文化サロン de ピアソン
「クリスマスリース作り講習会」終了！

ピアソン記念館行事として、すっかり恒例となったクリスマスリース制作講習会が、11月27日の日曜日に開催されました。2015年から開催していますので、今年で8回目の開催となります。北見市の広報を通じて周知していますが、あつという間に定員になってしまいました。今後は、

初心者（初めて参加される方を対象とした）コースの新設なども必要かと、考えています。

今回の参加者は、午前午後合わせて、大人14名、子供5名の19名で行われました。コロナ禍でもあり、ある程度の人数制限と、換気など対策を充分考慮しての講習でしたが、参加者は和気藹々と楽しげに制作していました。

リースの素材は、基本的にはこのピアソン記念館で採集される、ヒバ、松ぼっくり、クルミの実、などを基本とした素材で構成されています。

今回は、子供の参加が増えて来たことが特徴的です。今年初め
 お母さんと、
 あるいはお
 父さんとの
 参加でした。

て参加した 写真下の兄弟（姉・弟）は、自分たちのデザインで、端材を利用した思い思いの作品を作っていました。



受講前、講師の説明を聞く参加者

投稿

野付牛に幼稚園を

〜ピアノン夫妻の願いとそのエピソード〜

文責：北原俊之

北海道新聞の記事

書簡集から見たピアノン夫妻

下 最後の伝道地、北見

花愛し、

幼児教育に心砕く

.....

北見を去る直前まで、夫妻は幼児教育に心を砕いていた。小樽で幼稚園の運営を手伝った経験から「幼稚園には計り知れない価値がある」として、北見で「幼稚園を始めるのは私たちの義務である」と確信。夫妻の帰国後、北見教会がその志を継ぎ、1938年(昭和13年)に北見で最初の幼稚園(現在の北見幼稚園)を設立した。..... (関口潤記者)

◆ 北海道新聞 朝刊 14版

2014 (平成26)年11月21日

(金)、23面オホーツク北見 ◆

『書簡集』から

資料 No.0134-0144

小樽ロース幼稚園でのエピソード

ミセス・ジョージ・P・ピアノン
年次報告
期間 1925.5〜1926.4 (総括)
..... 記載 1926.5

この年次は、野付牛で六ヶ月、小樽で六ヶ月過ごしました。小樽では、ミス・マクローリーの留守を預かりロース幼稚園の代理校長を務めました。

- 1、野付牛にて
- (全略).....
- 2、ロース幼稚園 (小樽) にて

“子どもたちがわたしのところに来るのを妨げてはならない。天国はこのような者たちのものである。” (マタイによる福音書19章14節 (後半))

(キリスト教主義の幼稚園は、精神が気高く立派な人格を育てるために種をまく、この世で最も優れた場所です。聖書の物語、礼拝と祈りの訓練、文学・美術・音楽・歴史に関心を持つ素地、自然界への興味、国際的な視野と興味、慈善や人類愛など―これらすべてのことが幼稚園の中で培われるのです。さらには、このようなキリスト教主義幼稚園(の活動)から日曜学校が生まれ育つのです。)

このようにミス・アニー・L・ハウ (日本幼稚園界の女性第一人者で最長老) は書いています。さらに、見識にあふれた言葉で次のようなことも語っています

もし誰がか、積極的に幼稚園事業に身を投じてみようと考えるなら、それはとても素晴らしい機会となります。その事業の見返りは、真に尊敬される児童を養育する専門家となれることです。良心的かつ効率的に管理運営される幼稚園は、一人の人が管理監督するべきです。生涯にわたる献身が報われるからです。..... 途中省略

ところで、今回小樽滞在期間中で最も苦しい出来事は、背景となる時流の事情などを抜きにしてお話しすると、次のようなことです。

ミス・アニー・L・ハウ

(Miss Annie Lyon Howe
1852.1.12 - 1943.10.25)



創立者

頌栄短期大学ホームページより

アメリカ合衆国の宣教師、保育者、教育者、宣教師として来日。

フリードリッヒ・フレーベルの幼稚園教育を日本に伝え、一八八九(明治22)年十月に、兵庫県神戸市中山手通五丁目(頌栄幼稚園)に頌栄伝習所を、十一月に頌栄幼稚園を開校。

みなさんご存知の通り、私たちは野付牛に転居して、かれこれ三十二年になります。ここ野付牛で幼稚園を始めるのは私たちの責務であると、かねがね考えておりました。このクリスチャンたちも、町民も、町長までも、幼稚園を始めることを私たちに働きかけてきていますし、「(二方で)」当地の信徒(「お寺の住職たち」)は、「自分たちが幼稚園を始めると、我々を脅かすようなことを、たびたび語っています。しかし私たちは必要となる専門知識もありませんし、もうそんなに若くありませんし、また、任用期間もそろそろ期限を迎えようとしていますし、北海道中会も伝道団も必要な財源を用意できないとすると、私たちは、恐

以来、伝習所は頌栄保育専攻学校、頌栄短期大学と名称を変更し、頌栄幼稚園と共に今日に至っている。現存する保育者養成機関としては日本最古。幼児教育の黎明期、開花期に、保育室での実践と様々な講義と実技指導、さらに教科書の出版など日本の幼児教育の先駆者としての役割を十分に担ったのがハウである。

ハウは、一九二七年十月十七日に頌栄を辞して帰国、一九四三年十月二十五日ニューヨークローチェスターにて91歳で召天した。なお、一九四〇年ハウは日本での教育功労が認められ、天皇より藍綬褒章が授与されている。日米開戦の前年にもかかわらず贈られたこの受賞は、ハウの働きがいかに大きかったかを物語っている。

(Webの情報を参考に北原が作成)

れずにこの困難に立ち向かい無計画に行き当たりばったりで、幼稚園を始める勇気はないのです。

しかし、今ここ小樽で、六ヶ月間幼稚園で生活したおかげで、「幼稚園という社会集団特有の世界という意味での」文化、ならびにキリスト教伝道の施設という両面で無限の価値を持っていることを認識しましたし、専門技術知識を持った日本人教師の力をかりれば幼稚園事業での宗教教育と学校経営を推進できるというかなりの確信をもちました。

私たち二人(アイダ夫とミス・ター・ピアノン)は、一九二八年限りで日本を去るにあたり、キリスト教(を伝道するために重要な)施設の二つとしてキリ義の幼稚園

を残してゆくことを心から望んでいます。もちろん、野付牛教会と牧師館、キリスト教主義の学生寮【ピアソン館のこと】はすでに形となりしつかり役割を果たしています。私たちとしては、気持ちの上では野付牛で幼稚園をまさに今こそ始める好機だと考えています。

このような気持ちが高まっていて、諸事その準備が整ってきつつあるさなかに、思いがけない出来事があった、あわやそれらすべてが水泡に帰する事態を招いたので、その出来事というのは――

この春、小樽で、ある日私が外出している際に、一人の日本人が幼稚園を訪ねてきて、自分も幼稚園を始めようとしており経営のこつや要領を教わりたいので、施設全体を拜見させてもらいたいと言ったという。「園に居た」若い先生方が、それならばということでご丁寧にも徹底的・入念な仕事をしましたのです。ヒゼキア王がメロダク・バラダン王（の使者たち）にしたように、「家にある物も、国にある物も、ヒゼキヤが彼らに見せない物は一つもなかった」（イザヤ書39章2節）の言葉よろしく、宝物殿の中の秘密の数々を洗いざらい見せただけでなく――自分たちの給料の詳細な金額を教え、一年間の運営予算書類まで渡してあげたのです。

「こんなに熱心に視察に来た人はどんな人なのでしょうね？」と、私が園に戻った時に聞いたら、純真な乙女たち「若い先生方のこと」が、無邪気に、「ああそういういえば、ここに名刺がありました。あの方は、野付牛から来た仏教の僧侶のようですね。」と。！！！！！！！！

「驚き・驚き・驚き」！！！！！！！！
・・・と、ここまで忍耐強く話におつきあいいただいた心優しい読者のみなさんなら、まず何をなすべきだと考えますか。

「実は」ここで話ししておきませんが、私たちは、「幼稚園用」の建物をすでに完成させていて、とても広いプレイルームがあり、いくつかの教室も十分にとれるスペースがあります。（現在は、日曜学校や信者の集会に使っています。）この建物と敷地は、私たち二人の私費で用意したものです。

金券五〇〇ドルでもあれば、優秀な幼稚園教諭を一年間雇う給料を払えるでしょうし、必要な資材も購入できるでしょう。二年もすれば、幼稚園は財政的に自立できるはずで。

金券一〇〇〇ドルで、こういう「素晴らしく成果を上げられる教育施設」を野付牛でスタートさせることを請け負っていただけの方はどなたかいらっしやらないものでしょうか？

最後の日本からの報告書
Letter No.34
野付牛教会と幼稚園

最後の日本からの報告書
推定一九二八年三月頃
報告書 No.34
.....
【七頁目】
私たちの野付牛教会



OUR NOKKEUSHI CHURCH.

最後に、私たちの野付牛教会には、関わっている幼稚園施設があります。敷地と建物はすべて確保しており、備品などもかなり揃っており、あとは幼稚園そのものが開設されるのを待つ状態です。

この教会の前側の広い空き地は、私たちの所有であり、後々まで使える「立派な」教会堂を献堂することが待たれます。現在の教会堂は、屋根の頂の端に十字架が立てられた建物の部分で、本来の教会堂は、鐘のところで、[写真の教会堂の]右手側に突き出した部分が牧師館で、それと対照的に反対側の左側に突き出した部分がいわゆる「幼稚園」部分です。厳密な意味で教会堂部分は、教会員達の所有となっています。この現在の教会の建物を、教会員から買収するために十分すぎる資金をすでに用意してあります。というのも、この建物は、教会員達が、かなりの規模の幼稚園として十分すぎる広さになるように資金を集めたものだったからです。購入費用（千円以上）は、定期預金になっており、新しい教会堂献堂に対する地域のクリスチャン達の高まる熱意を待ち構えています。

ここまで、私たちが野付牛でまだ達成できていないことを二つ、三つ書き綴ってきました。「聖書を引用して」かつて、塔を建てようとして、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいました（そのような者は主イエスの弟子になれないとの話）。しかし、私たちは、用地を選定し、資材を集め、事業計画をスタートさせましたし、もちろん、ちゃんと費用を見積もることも忘れてはいないと思っております。私たちは、主の導きによってできあがった計画と設計書にもとづいて活動してきたと信じています。私たちは、あらかじめあらゆる費用を見積もることをしてきましたので――つまり、主に関わることを完全になされんことを主にお願ひしたいのです。しかし、私たちが言えることは、主のしもべとなり働く作業員が必要であり、そういう人を探し、そのような人に、私たちが託すことです。

5P「富之助とみよ」の追加情報
※本をお求めの場合は、書店・オンラインショップで扱っています。
・書名「富之助とみよ」
・発行所 株式会社 柏嶋舎
・発売所 株式会社 星雲社
・価格 本体1500円

敬具
NOS EXTURI VOS (E?) SALUTAMUS
ジョージ・P・ピアソン
アイダ・G・ピアソン

幼稚園児手作りオーナメントでクリスマスツリーを飾りました！

当記念館の幼稚園児によるクリスマスツリー設置も、今年で6回目を迎えました。

ピアノン夫妻がこの北見の町に居を移してから、地元のお母さんと子供たちとクリスマスツリーを飾り、クリスマス会を行なっていました。それが北見にとって、家庭で行われるクリスマスツリー飾り付けの最初となりました。

その当時のクリスマスツリー飾り付け行事を復元しようということで、2017年から北見幼稚園児の協力を得て実施しています。

年長組の27人の園児たちは、園



の『はてに』を元氣よく皆で歌いました。

次に、園長先生が絵本を読んだくださいました。ブライアン・ワイルドスミスの「A Christmas Story」(クリスマス物語)です。最後に、クリスマスツリーを囲んでの記念撮影です。昔のピアノン邸で親子のクリスマス会記念撮影と同じ構図状態での撮影です。昔の写真には、後方の窓のところにサンタクロースの壁掛けが飾ってありましたが、今は着物姿のピアノン夫妻が、温かい眼差しで園児たちを見守っているかのような写真パネルがありました。

から歩いて11時に到着。準備されていた、記念館の庭で植栽している鉢植えのモミの木を目のあたりにして、「大きい！」と歓声をあげていました。

先生の説明を聞き、自分たちで作ったエッグポマンドーを、思い思いの木の枝に飾り、雪になる綿も木の枝にそっと乗せ、満足そうに微笑む園児もいました。飾り付けが終了すると、ピアノン夫人愛用のリードオルガン(1878年製)にあわせて賛美歌『あらの



道新文化センター講座
第三回「謎解き、ピアノン夫妻とノツケウシ」
ピアノン邸に住んだアイヌ婦人川村イカンノさんと息子金太郎君をめぐると話

10月3日(月)に開講講座では12名の受講者で行なわれました。

今回の講座は今年二回目の開催で、内容も講師も別メニューのものでした。講師はピアノン会玉置義弘理事、テーマも標題にあるように、イカンノさんに関わるもので、ピアノン夫妻が帰国後、永い間消息不明であったのですが、今回の講座で、その消息と関係者の所在等がわかり、多くのあたらしい情報が紹介されました。

写真下／玉置義弘講師の丁寧な解説で新事実が紹介されました。



石井浩氏の労作「富之助とみよ」発行！

当会会員石井氏(大和市在住)が、約5年の歳月をかけ書き上げた本が出版された。2018年の6月、日系ブラジル人牧師ルイス夫妻と共に、ルイスさんの祖先の足跡を追って、ピアノン記念館を訪れた。その祖先とは本の題名でもある、三澤富之助と妻みよである。二人はピアノン夫妻と深い交流がある方であった。詳しい情報は当会ホームページで案内します。

・発売所／星雲社 ☆ぜひ、一読を。当会で貸出可能です。

写真／記念館で石井夫妻とルイス夫妻



「ニュージージーランドからの便り」第36回

ピアノソング顧問 グラハム・ハード氏



2022・10・19

春の果樹園

◆北見の秋は楽しいことでしょう。目下、ファンガヌイへ訳者注「ファームのある故郷・北島南部」へ来ています。春の心地よい天候ですが、今日は少し風が。果樹の周りを除草し、リンゴの木の害虫退治に仕掛けを新しくしました。プラムと梨は花が終わり、マルメロは開花して、リンゴもぼつぼつ開きはじめています。来年は今年以上に実りそうですが、プラムはそれほどでもないかなど、予測は難しいです。池は満水で、傍のマヌカやキャベツの木が花をつけています。カエルの鳴き声も聞こえ、それはまた良い兆です。

◆地域の古本市で良いものを見つけてきました。ナショナルギャラリー用のガイドの中に、私が好きな英国の画家トーマス・ゲインズバラの作品カタログがありました。ここにはテレビがないので、夕刻からは読書や音楽を聴くなど、楽しんでいきます。日曜日(10/23)にはファンガパラオアへ北島北部の自宅へ戻る予定です。北見の皆様宜しくお伝えください。

2022・10・27
ありがとう

◆北見の秋も深まる季節ですね。今日、親切なお手紙や選り抜きの新聞記事などが郵便受けに届き、嬉しく思いました。国際郵便事情はまだ順調ではないようで、今回は、ほぼ1カ月かかっています。

◆ファンガパラオアへは日曜日(10/23)に戻ってきました。マウント・ルパペフやマウント・ンガウルホエの眺望は素晴らしく、天候も最高でした。ファンガヌイでの滞在は楽しく、果樹園での十分な作業など満足です。雑草の中に生き残っていたグーズベリーの茂みが見つかり嬉しかったですが、今年の実は望めないと思います。

◆ここを出る前に植えておいたジャガイモが芽を出し葉が伸びていたので、昨日は土寄せをしました。庭の池の睡蓮は幾つか花をつけ、ピンクが多い中に一つだけ黄色がありました。

2022・11・7

◆今日午後のemailにより北見の秋を嬉しく思っています。こちらも同様です。牧師ご一家がコロナ感染症から無事に回復されましたように！ ニュージージーランドの罹患者は、今は安定していますが、以前よりは多いです。

◆今朝、湾方面とシエークスピアパークまで散歩しました。庭では

ジャガイモとユリがよく育っています。このメッセージが無事に届きますように、そちらのコンピュータがこれ以上面倒なことになるまいように！

2022・11・23

ファンガヌイから挨拶

◆新聞記事やメッセージなどありがとうございます。新しいコンピュータのシステムが良い仕事をしてくれそうです。皆さんが健康で、北見の気温も程良い具合でありますように。

◆先週末曜日(11/17)からファンガヌイへ来ていて、来週土曜日(12/3)にはファンガパラオアへ戻ります。この頃、強風・豪雨・雷などと天候がめまぐるしく変わっていて、今日は風が強く、上空では雲が絶え間なく流れています。

◆果樹園へ行ってきたところで、木々が激しく揺れていましたが、果実は安定していました。プラムは大きくなり、リンゴは、特にフジとグラニー・スミスの木では形になってきました。

◆足元から大きな鳥が飛び立った時にはビックリしました。孔雀の雌で、グラニー・スミスの根元、高い草丈の中の巣には大きな4個の白い卵がありました。巣に触りはしなかったのですが、親鳥たちが戻ってくれたら良いのですが。コテージの方から孔雀の鳴き声が聞こえているのは、ステイーヴ(従兄弟)の農場に自生している群れで、この前、私の池のそばでも見かけま

した。パドック内の黒や白模様の若い子牛たちは、なかなかの良い眺めです。

◆昨日、ステイーヴと一緒にファンガヌイ河口を見に出かけました。新しい防波堤ができていました。新しい防波堤ができています。新しい防波堤ができています。新しい防波堤ができています。

◆何枚かの写真、無事に届きますように。

◆北見の皆様方にご多幸を！
グラハム・ハードより
写真/新しい防波堤とステイーヴ



編集後記

今年も残すところ後20日あまりとなりました。世界的な状況としては、コロナ禍とロシアによるウクライナ侵略など、暗い世界でありました。それでも、11月にはワールドカップサッカーがドバイで開催され、大いに盛り上がっています。このような楽しいイベントで世界が満たされていたらどんなにかいいでしょう。

ピアノ記念館の自主事業も、この三年間コロナ禍ということもあり大きな事業は開催できない状態でしたが、10月に「われ弱ければ 矢島榎子」の上映会を開催しました。ほっかいどう遺産W A O N Nの助成を得ての事業、会報で映画担当理事の中山副理事長が書いていますように、映画の評価はよかったです。今後ピアノ夫妻と矢嶋榎子の関係など、より広く市民に知ってもらえればと思いました。

石井会員の労作「富之助とみよ」。当館に二冊の寄贈を受けました。一冊はピアノ文庫での保存。残り一冊は貸出用として活用します。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟

賛助会員・団体会員・運営会員募集集中!

瞳ふあっしょん・瞳けあ
めがねのよっしー
代表 岩井 敏忠
〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目
携帯 090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664
定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時